

— 第2章 —

三豊市の男女共同参画の現状

2

# 第2章 三豊市の男女共同参画の現状

# 2

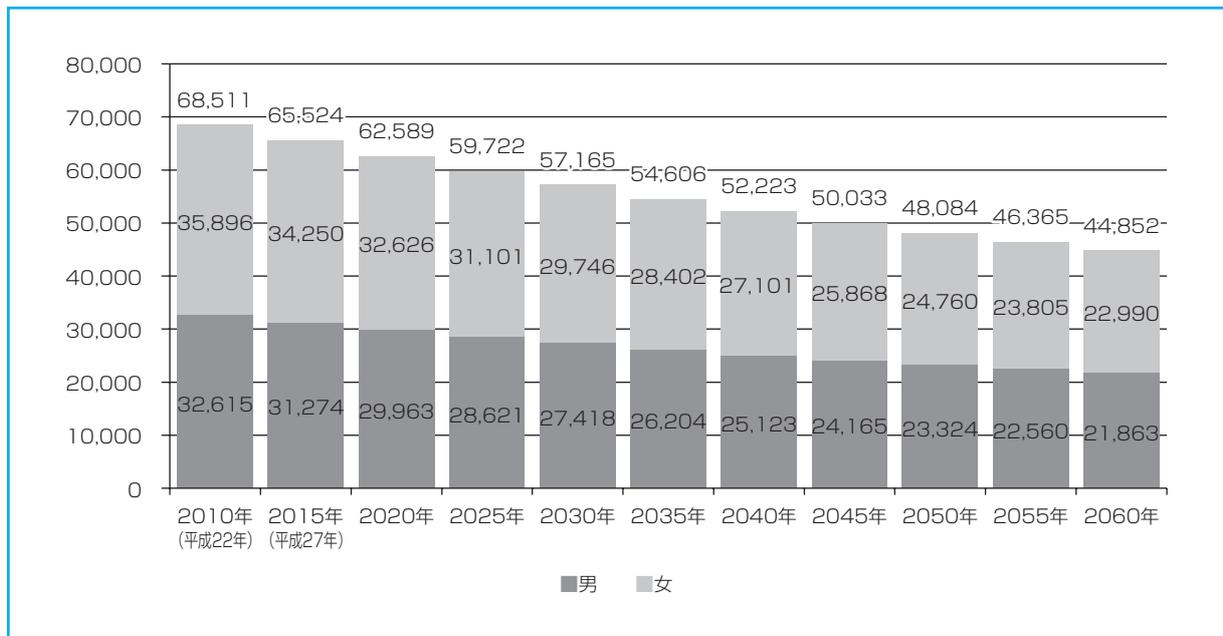
## 1 統計データからみる三豊市の状況

### (1)人口構造の状況

三豊市の「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」によると、2045年には本市の人口は約5万人と推計されており、2015(平成27)年よりも約1万5千人減少する推計となっています。それに伴い、15歳から64歳までのいわゆる「生産年齢人口」の比率はさらに減少していくと予測されます。今後、地域の活力の維持・発展をめざすためには、本市における男女共同参画をより発展させ、誰もが安心して暮らせるように、女性の潜在能力を活用する環境整備や受け皿づくりの推進が重要になると考えられます。

#### ■男女別人口の推移・推計

単位：人

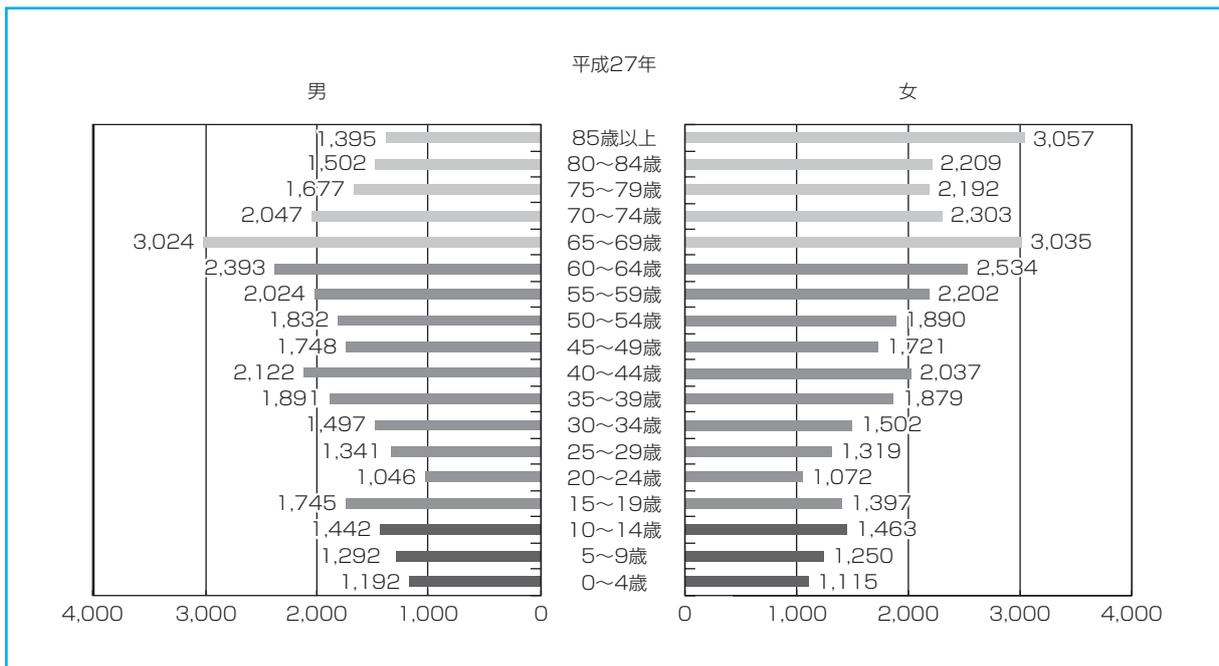
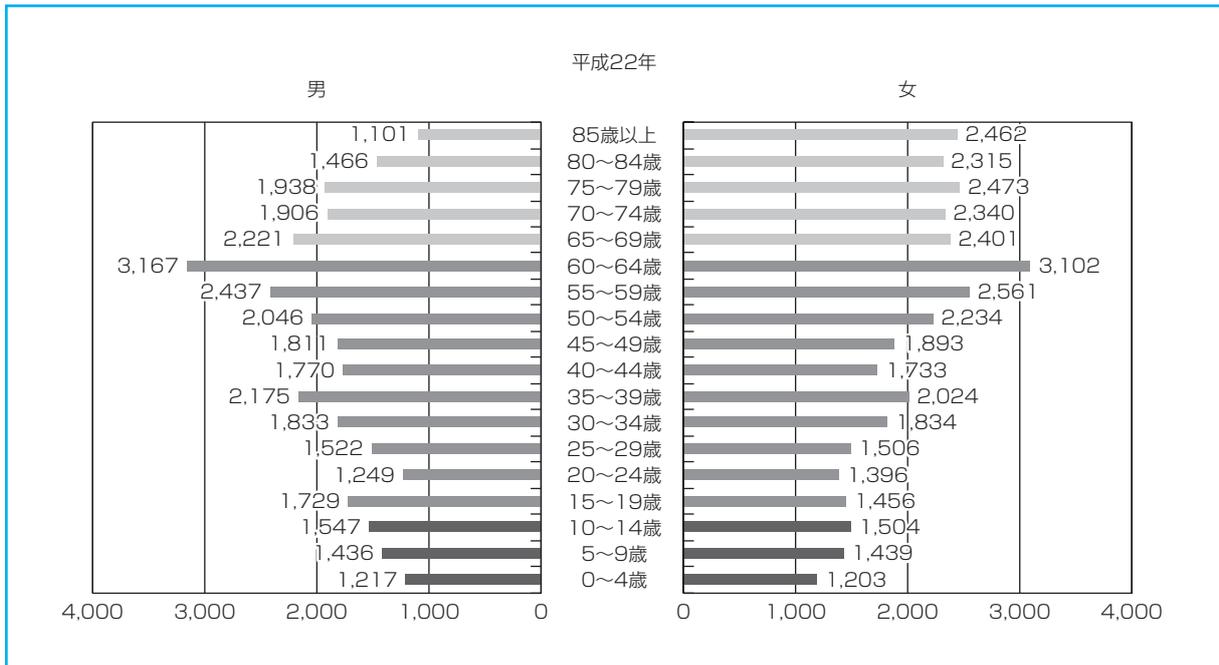


出典：三豊市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン基礎データより

注)推計時の端数処理により、男女別人口の和は推計された総人口に必ずしも一致しない。

■人口ピラミッドの推移

単位：人



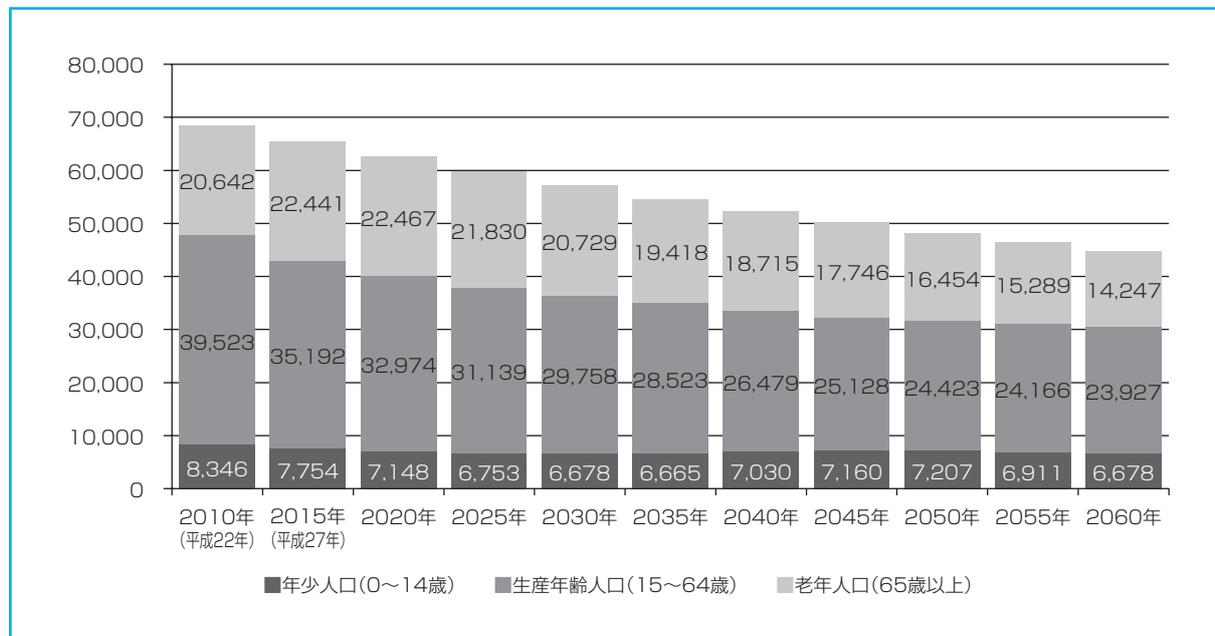
出典：国勢調査

## (2)年齢3区分人口・合計特殊出生率の状況

平成27年の国勢調査によると、平成27年現在の本市の高齢化率(※)は34.3%となっています。また、最新(平成20年～平成24年)の合計特殊出生率(※)は1.51であり、全国平均よりも若干高いものの、香川県平均よりも低い数値になっています。育児や介護の分野において、今後ますます男女共同参画の推進が重要になると考えられます。

### ■年齢3区分人口の推移

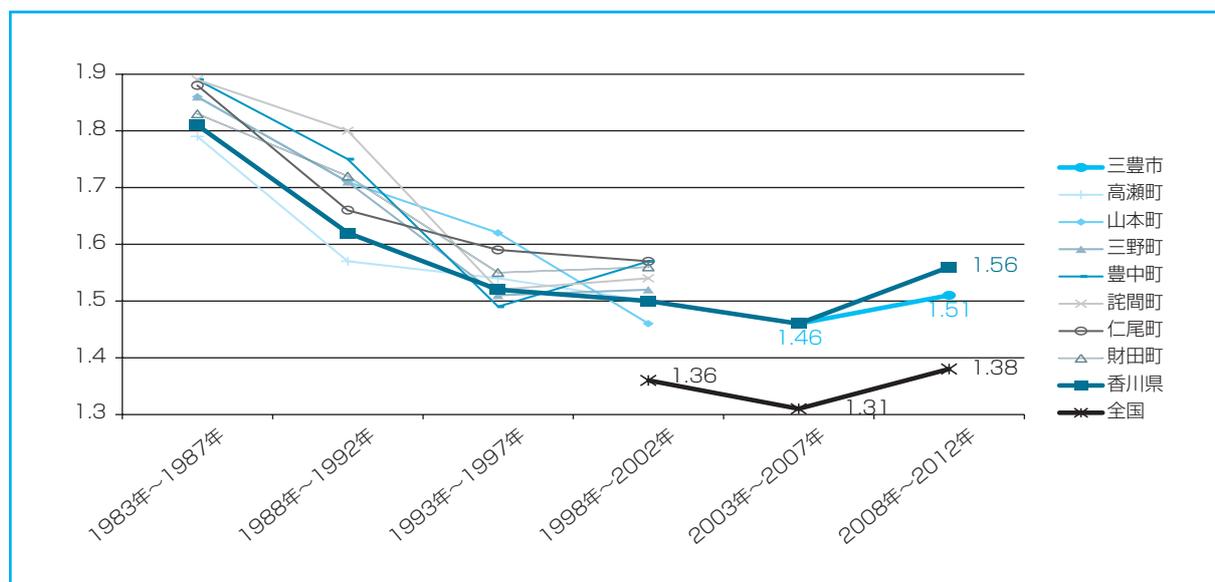
単位：人



出典：三豊市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン「人口の将来展望」

### ■合計特殊出生率の推移

単位：人



出典：厚生労働省 人口動態保健所・市町村別統計

※高齢化率…総人口に対して、65歳以上の人口が占める割合。

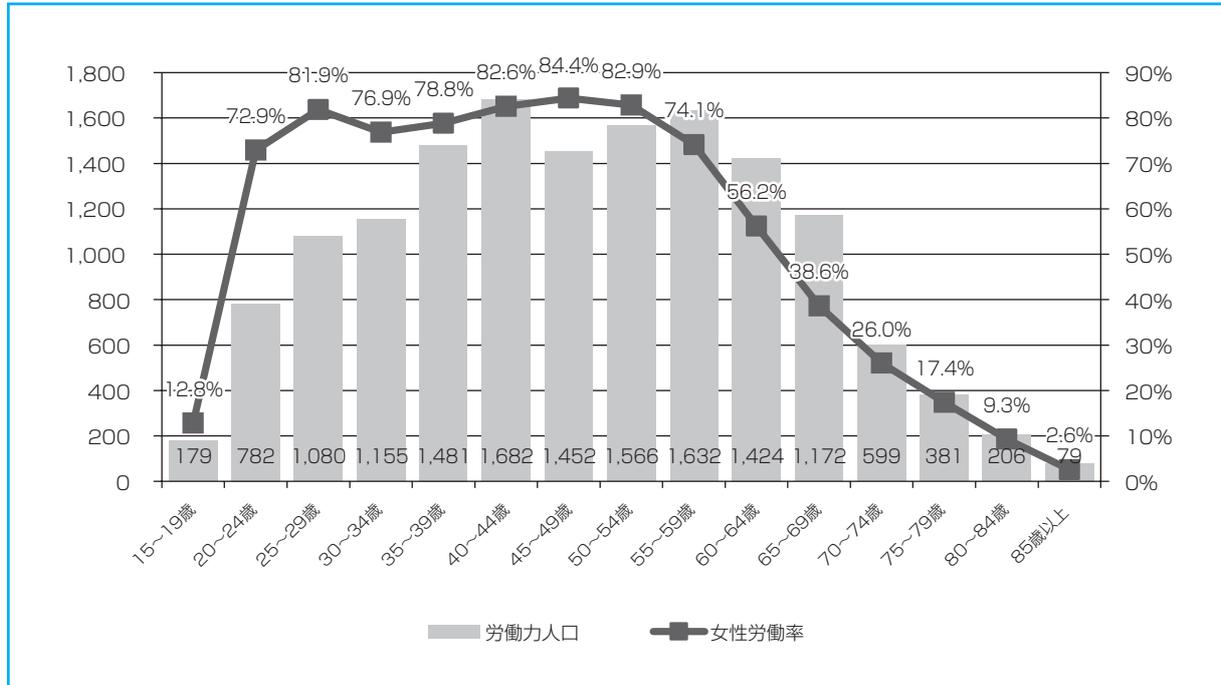
※合計特殊出生率…15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、この場合、ある期間における各年齢(15～49歳)の出生率を合計した「期間合計特殊出生率」。

### (3)女性の就業状況

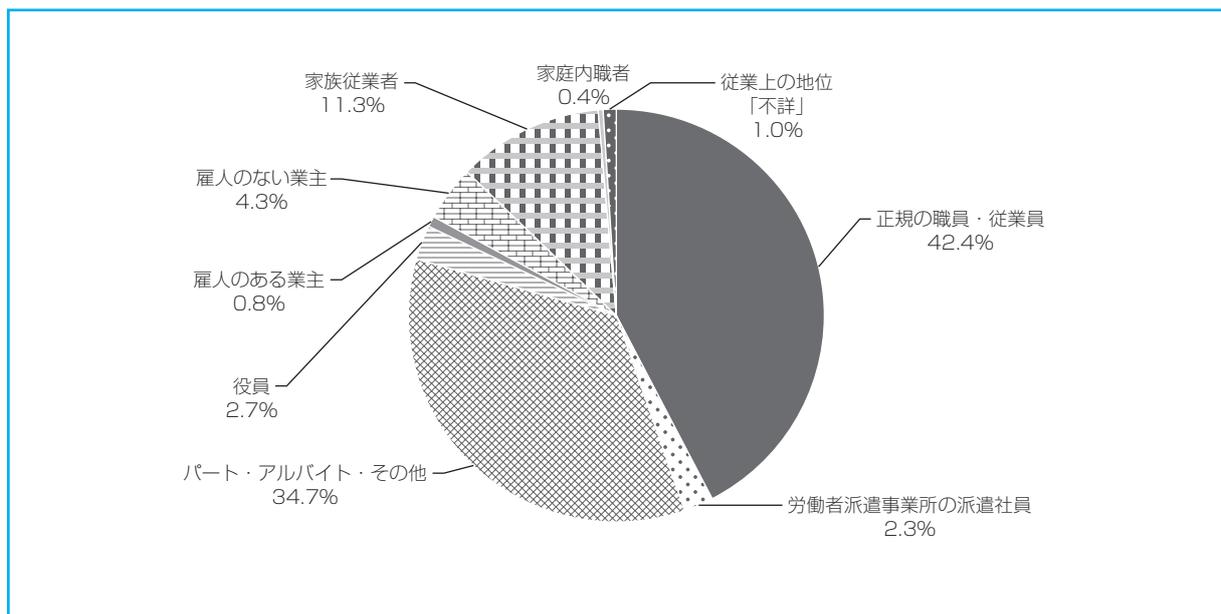
平成27年の国勢調査によると、本市の女性の就業率のグラフはいわゆる「M字カーブ」を描いており、20代後半で82%近くの就業率になるものの、30代前半で76.9%にまで下がり、その後再び50歳代くらいまでは80%台に上昇した後に減少していきます。また、女性就業者の従業上の地位について同じ平成27年の国勢調査でみると、正規の職員・従業員は42.4%にとどまり、パート・アルバイト・その他が34.7%と多くなっています。20代～50代までは、20～30%の女性が就業していない状況があるほか、高齢女性の就業率も低くなっており、今後、人口減少や高齢化による人手不足が見込まれる中、女性の働きやすい環境づくりが急がれます。

#### ■女性の労働人口・労働力率の推移

単位：人



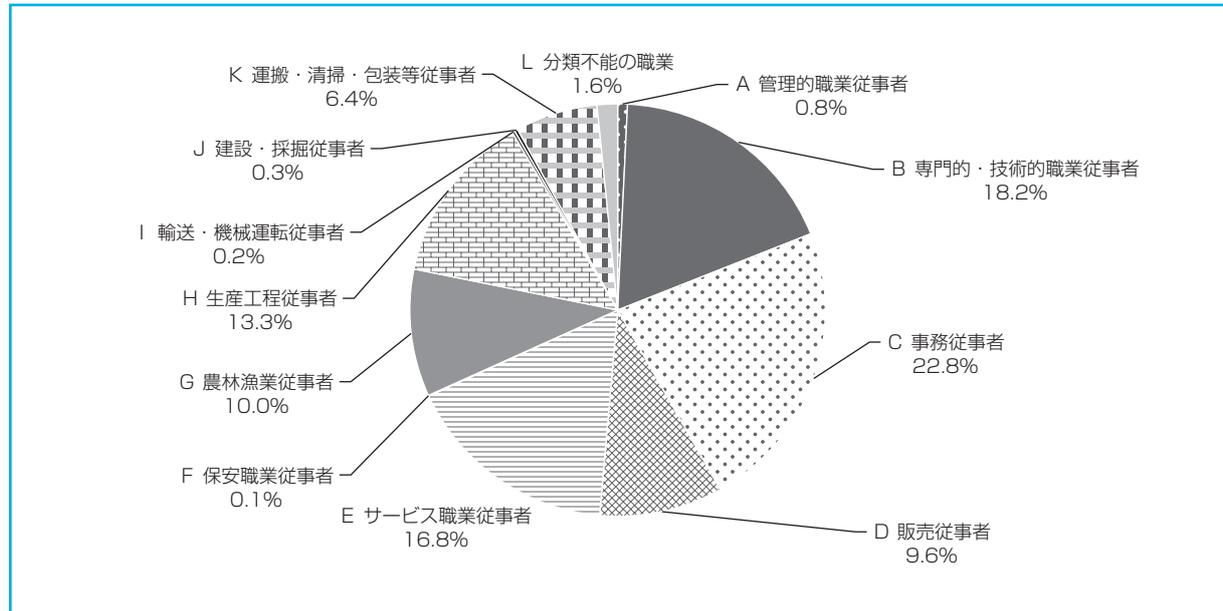
#### ■雇用形態別にみる女性の就業状況



出典：平成27年国勢調査

平成27年国勢調査結果によると、本市の女性の職業別割合は以下のようになっており、「A 管理的職業従事者」はわずか0.8%にとどまります。産業別の女性就業者数の状況を見ると、「医療、福祉」が最も多くなっています。

### ■職業別にみる女性の登用状況



出典：平成27年国勢調査

### ■産業にみる女性の就業状況

単位：人

	総数(職業大分類)	A 管理的職業従事者
総数(産業大分類)	14,480	110
農業、林業	1,516	3
漁業	25	-
鉱業、採石業、砂利採取業	2	-
建設業	369	12
製造業	2,643	22
電気・ガス・熱供給・水道業	7	-
情報通信業	43	1
運輸業、郵便業	294	12
卸売業、小売業	2,214	24
金融業、保険業	282	1
不動産業、物品賃貸業	74	3
学術研究、専門・技術サービス業	199	2
宿泊業、飲食サービス業	858	3
生活関連サービス業、娯楽業	578	1
教育、学習支援業	946	1
医療、福祉	3,218	13
複合サービス事業	218	1
サービス業(他に分類されないもの)	458	8
公務(他に分類されるものを除く)	297	3
分類不能の産業	239	-

## 2 三豊市男女共同参画に関する基礎調査

### (1) アンケート調査の概要

項目	市民アンケート	企業アンケート	高校生アンケート
調査対象	市内在住の18歳以上の男女	市内の企業	市内の3高校に在籍する1年生及び2年生
配布数	2,000	118	893
調査方法	郵送による配布及び回収		学校へ依頼
調査時期	平成29年7月	平成29年7月	平成29年7月
調査地域	三豊市全域	三豊市全域	三豊市全域
有効回収数	700	54	863
有効回収率	35.0%	45.8%	96.6%

### (2) 企業ヒアリングの概要

企業における男女共同参画に関する現状と企業の取り組み状況を把握するため、企業アンケートの対象企業から11社を抽出し、訪問してヒアリング調査を実施しました。

#### 【ヒアリング内容】

- ①女性従業員の活用について
- ②育児・介護と仕事の両立支援について
- ③(セクシュアル・)ハラスメント対策について
- ④その他の男女共同参画について
- ⑤行政の取り組みについて



### 3 第2次プランの取り組み結果と評価

第2次三豊市男女共同参画プランを毎年点検・評価した結果、平成25年度から28年度までの施策実施率は以下のとおりです。

重点目標ごとの施策実施率の説明は次ページに掲載します。

基本目標	H25	H26	H27	H28	重点目標	H25	H26	H27	H28
意識の改革	85%	89%	96%	達成率 93%	1.男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直しと意識改革	91%	100%	100%	100% 達成
					2.男女共同参画を推進し、多様な選択を可能にする教育・学習の充実	81%	81%	94%	達成率 88%
参画の推進	86%	92%	92%	達成率 97%	3.政策・方針決定過程への女性参画の拡大	81%	88%	88%	達成率 94%
					4.家庭・地域生活と職業の両立支援	86%	95%	95%	100% 達成
					5.雇用等の分野での男女の均等な機会と待遇の確保	89%	89%	89%	達成率 89%
					6.農林水産業・商工業での男女共同参画の確立	92%	92%	92%	100% 達成
自立の支援	94%	96%	96%	達成率 96%	7.一人ひとりが安心して暮らせる環境の整備	90%	93%	93%	達成率 93%
					8.生涯にわたる健康の支援	100%	100%	100%	100% 達成
人権の尊重	85%	85%	94%	達成率 94%	9.男女の人権が尊重される社会の実現	100%	100%	100%	100% 達成
					10.あらゆる暴力の根絶	74%	74%	89%	達成率 89%
計	88%	91%	94%	達成率 95%	計	88%	91%	94%	達成率 95%

重点目標	達成状況及び課題
1.男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直しと意識改革	今回のアンケート結果では、「男女共同参画」の言葉を知っている市民の割合が5年前と比較し2.3%増え、「全く知らない」と答えた割合が1.6%減少しました。今後も広報、研修を中心に、広く啓発活動を行っていきます。
2.男女共同参画を推進し、多様な選択を可能にする教育・学習の充実	地域の大学と連携した男女共同参画の推進において、十分な取り組みには至らなかったため、今後は取り組み内容を見直し、特に、保護者を通じた男女共同参画の推進を図っていきます。
3.政策・方針決定過程への女性参画の拡大	自治会等自主的組織での女性参画の推進において、十分な取り組みには至らなかったため、今後は、自治会を含め、地域コミュニティ活動全般における女性参画の拡大を図っていきます。
4.家庭・地域生活と職業の両立支援	アンケート結果では、「仕事と家庭生活や地域活動では、仕事を優先している」と答えた割合が1.6%減少したものの、依然高い割合となっています。今後も両立支援を継続し、ワーク・ライフ・バランス(※)の推進を図っていきます。
5.雇用等の分野での男女の均等な機会と待遇の確保	ハローワークと連携した女性の職業能力開発への支援において十分な対応が取れませんでした。今後は、キャリアアップに関する情報等の発信に積極的に努めていきます。
6.農林水産業・商工業での男女共同参画の確立	女性リーダーの育成に向けて、今後も男女共同参画の学習機会を提供していきます。
7.一人ひとりが安心して暮らせる環境の整備	今後は、毎年度の達成状況を把握することができる指標を設定し、達成状況を確認できるようにします。
8.生涯にわたる健康の支援	引き続き、女性特有のがん検診の受診率向上に向けての事業や、マタニティ教室等を通じたリプロダクティブヘルス/ライツ(※)の推進・啓発に取り組みます。
9.男女の人権が尊重される社会の実現	引き続き、地域メディアやインターネット等における男女の人権尊重に加え、国際理解と国際交流の推進を図っていきます。
10.あらゆる暴力の根絶	若年層へのデートDV予防について、教育現場での啓発が十分ではなかったため、今後は、若者層や教職員も含め、デートDV予防啓発に取り組んでいきます。

※ワーク・ライフ・バランス…男女がともに、人生の各段階において、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発等、様々な活動について、自らの希望に沿った形で、バランスをとりながら展開できる状態のことをいう。

※リプロダクティブヘルス/ライツ…性と生殖に関する健康/権利のことで、妊娠・出産・中絶に関わる女性の生命の安全や健康を重視した考え方。